

2025（令和7）年度入学試験問題

国語

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題の本文は全部で18ページ（問題一・二）です。
- 全国入学試験においてネットワーク情報学部では、問題一のみを採点の対象とします。
- 問題二は解答しなくても結構です。
- なお、同一日に他の学部を受験する方、およびスカラシップ入学試験を受験する方はすべてを解答してください。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答は、設問に従って、該当する解答欄にマークしてください。なお、すべてマーク解答問題です。解答にあたっては、必ず黒の鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
6. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
- (1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し、該当するマーク欄を正確にマークすること。
(機械処理上、非常に重要なので誤記のないよう注意してください。)
 - (2) 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
 - (3) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
 - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないこと。
 - (5) 解答用紙の解答欄をマークするときは、次の（例）のようにマーク解答欄の番号をぬりつぶすこと。

（例） ③と解答する場合

マ ー ク 解 答 欄									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一（現代文）

全員が解答してください。

問題一 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

(注1) タウトが渡航先としてなぜ日本を選んだかについては諸説ある。一九三二年頃に、日本のモダニズム建築運動を先導していた「日本インターナショナル建築会」から招待を受けていたことは間違いがないし、日本を経由して、最終的にはナチスと対抗していたアメリカへの亡命を企てていたとの説もある。しかし最も大きな理由は、タウトが日本という場所に、漠然とした、根拠の曖昧な期待を寄せていたからであると、僕は考える。

(注2) タウトはコルビュジエとミースに代表されるモダニズムの建築家を、フォルマリスト(形態主義者)として批判していた。コルビュジエとミースの戦略は、代表作であるサヴォア邸(一九三一)のように、その場所、その地面から切断された目立つ形態(フォルム)を作ることであり、場所と建築とをつなぎ合わせるという最も重要なことをおろそかにしたと、タウトは批判した。

彼のフォルマリズム(形態主義)批判の核心はここにある。モダニズムが切断主義であることをタウトは見抜き、切断することによってフォルムだけを実際立たせる戦略のA性を看破した。そのフォルマリズムを超えるために、タウトは、場所とひとつに接続された市民のためのやさしい家、ジードルング(集合住宅)の設計に情熱を注いだ。しかし時の建築界は、ヒューマンで地道なジードルングには注目せず、コルビュジエやミースの切れ味のいいフォルマリズムを時代の寵児(ちやう)としてはやしたのである。

不本意の中で悶々とした状況を生きたタウトは、日本という、様々な意味で遠い場所に、一筋の可能性を感じた。そして、ナチス政権の登場という政治的偶然に背中を押される形で日本を訪れる。日本は、期待以上のものをタウトに与えてくれたのである。

一九三三年五月三日に敦賀港(つるが)に着いたタウトは、翌五月四日、日本インターナショナル建築会の面々と共に京都に入り、桂離宮を訪ねた。それはタウトにとって、人生における特別な日となった。その日は偶然にもタウトの誕生日でもあった。庭園に入る前、桂垣(かつらがき)と呼ばれる、生きた竹を編んで作られた、Cを目にして、タウトはラクルイしたと伝えられている。

純粹で余計なもののない建築。心を打つ——無垢——そう、子どものように。今日のわれわれの憧憬の実現。

(ブルーノ・タウト『日記』)

桂離宮はタウトに、コルビュジエ、ミース流のフォルマリズム、A 的な切断の建築に代わる新しい建築の可能性を見せ

た。そしてタウトは桂離宮を「D」と呼んだ。その「D」の本質を、タウトは「関係性の建築」とした。

このDの真髄は、関係の様式——いわば建築せられた相互的關係にある。

(ブルーノ・タウト『日本美の再発見』)

日本建築は形態の建築ではなく、関係性の建築であるというタウトの指摘は、その後いろいろな場面で僕にヒントを与え、僕を導いてくれた。タウトは庭園と建築との関係性が、そのDの源であることを見抜いていた。桂離宮の中にある古書院の月見台の竹縁たけえんに代表される様々な接続装置が、庭園と建築、庭園と人間との「関係」を定義し、関係を創造していく。その関係の結果として桂離宮は特別な存在となり、「D」たりえることを、タウトは発見した。

工業化社会とは、商品を大量に生産し大量に販売して、経済をまわしていく社会である。そのシステムが必要としていたのは、わかりやすくシンブルな形態を有する商品であった。商品とは切断の別名であった。建築においても、そのような「商品」のデザインを得意としたコルビュジエやミースが、時代の寵児となったのである。「関係」^Eのような曖昧で複雑なものを理解する情熱を、二〇世紀初頭の工業化社会は有していなかった。

桂離宮はロイヤルファミリーの一員である八条宮智仁親王はちじょうのみやとしひとしんのうによって造営された一種の宮殿である。しかし、この宮殿はある意味で驚くほどに質素であることにも、タウトは驚嘆する。

それならばヨーロッパの宮殿と、日本の「宮殿」との差異はどこにあるのだろうか。ヨーロッパの宮殿や城は、たとえきわめて小さいものにもせよ、いずれも階級を特示するという性格を帯びている。また宮殿の建設者は、庶民階級に対して、自己のもつ高い文化標準の模範を示そうとする意図を懷いだいていた、——なるほどこのことは桂離宮にあってもまた同様である。しか

しヨーロッパの宮殿には、宮廷生活と庶民階級との距離が著しく強調されている。確かに桂離宮にも、宮廷生活があった。けれどもここには、旧いヨーロッパに見られるような階級的距離はまったく認められない。(略)桂離宮はあらゆる決定的な点において、いかなる日本住宅よりも文字通り簡素である。

(前掲『日本美の再発見』)

建築史家の藤岡通夫(一九〇八―八八)は、このタウトの指摘に答えるかのように、その著『京都御所』で御所の細部を徹底的に調査し、世界各国の宮殿建築との比較の上で、このように質素な宮殿建築は世界に例がないという一文で締めくくった。

以上で京都御所内の主要な御建物の拝観を終るが、そこに見られるものは平安朝の古制を伝える宮殿様式から、近世末期の宮殿様式に至る変化の多い建物群の連鎖である。(略)そしてそこには極めて簡素な、実用に終始した建築構造が見られるのであって、華美に走った威圧的な外国の宮殿とは全く異なった様式が見られることは、一つの驚異でもある。

藤岡の指摘は、タウトの発見した質素さを、日本建築の専門家の目で検証し、追認した文章とも読める。

何がこの簡素な住宅を、それにもかかわらず特別なものと感じさせるのか。庭園との関係性がすべてであることを、タウトは見抜いたのである。形態ではなく、関係性こそが、豊かさの源だった。

この発見に基づいて、タウトはさらに、日本の伝統建築全体を大胆に整理していく。タウトは桂離宮と伊勢神宮が、日本建築の良質な部分、モダンな部分を代表すると見做して賛美した。逆に日光東照宮を、日本建築の悪趣味でキツチュ(俗悪)な部分の代表として批判した。この二つの日本文化の根源を、タウトは宮廷文化と武家文化との対立に求めた。桂離宮と伊勢神宮はともに天皇家の文化、すなわち王朝的なものと深く関わっており、東照宮は江戸幕府、すなわち武家の文化と深くつながっているとタウトは結論づけ、日本を整理した。

日本の伝統文化の中に、二つの対極的なものを見出そうという試みは、タウトに始まるものではない。その二項対立型日本論の根源にあるのは、日本が中心ではなく辺境に位置し、強力なる中心の影響に犯され、翻弄され続けたという、ある種の被害者意識

であり劣等感であると僕は推測する。そしてこの被害者意識は、翻弄されつつも本質においてしなやかであり不変であった日本という一種の選民意識へと容易に反転した。

^F被害者意識と選民意識とが複雑に入り混じりあったアマルガム（融合物）は、日本人の心の風景であり続けた。古くは、中国の歴史書にならって漢文で書かれた『日本書紀』の大陸的世界観が、変体漢文で書かれた『古事記』のドメスティックな世界観と対立し補いあった。本居宣長は外来的な儒教の教えを「漢意」として批判し、逆に「もののあはれ」を日本固有の情緒であるとして称え、『古事記』研究にこそしんだ。

その意味でタウトの日本論は、『日本書紀』vs.『古事記』という宣長の二項対立を、無意識のうちに継承したものであった。彼は宣長を読んではいなかったが、意識しないままに「もののあはれ」を受け継ぎ、庶民文化ともつながる質素な王朝文化を称賛し、後につづく成金的な武家文化を貶めた。

日本の建築論の長い歴史において、この二項対立は繰り返された。数寄という美学を完成させたといわれる千利休は、規則正しく柱が立ち並ぶ、書院造のシステムティックな固い形式を批判し、貧しく飾らない民家を賛美した。「もののあはれ」の延長上に、庶民的でやわらかい数寄の美学が生まれた。

明治以降も、この手の二項対立型の排他的な日本論は、手を替え品を替え繰り返された。「漢意」と「もののあはれ」の一方が賛美され、一方は貶められた。明治に西欧の建築教育を範として、富国強兵のための工學教育の中心地として創立された東京大学の建築学科においては、国家と深く結びついた奈良の古い寺社建築のみが重視され、「もののあはれ」を代表する茶室は個人的で趣味的なるものとして、研究の対象とすることさえ認められなかった。一九二〇年設立の京都大学建築学科の基礎を築いたといわれる建築家武田五一（一八七二—一九三八）は、自らは東大出身であったが、東大の歴史観に異を唱えて茶室研究を奨励し、不規則なもの、個人的なるものを重要視する新しい建築教育を、京都の地で創始した。

（隈研吾「日本の建築」による。ただし設間の都合上、一部を改変した）

(注1) タウト……ブルーノ・タウト(一八八〇—一九三八)。ドイツ出身の建築家

(注2) コルビュジエ……ル・コルビュジエ(一八八七—一九六五)。スイス出身のフランスの建築家

(注3) ミース……ミース・ファン・デル・ローエ(一八八六—一九六九)。ドイツ出身のアメリカの建築家

(注4) サヴォア邸……ル・コルビュジエが設計した、フランスにあるモダニズム建築の住宅

(注5) ドメスティックな……自国の、国内の

問一 傍線部W「悶々」の「悶」の字の訓読みとして正しいものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 1 にマークしなさい。

- ① わずらう ② もがく ③ もだえる ④ あがく ⑤ あえぐ

問二 傍線部X「ラクルイ」を漢字で書き表すとき、「ルイ」の字と組み合わせて二字の熟語となるものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 2 にマークしなさい。

- ① 血 ② 係 ③ 本 ④ 同 ⑤ 異

問三 傍線部Y「本居宣長」とあるが、『本居宣長』という本を書いたのは誰か。次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 3 にマークしなさい。

- ① 和辻哲郎 ② 小林秀雄 ③ 唐木順三 ④ 亀井勝一郎 ⑤ 江藤淳

問四 傍線部Z「奨励」の対義語としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 4 にマークしなさい。

- ① 防御 ② 命令 ③ 勉励 ④ 抑制 ⑤ 防止

問五 空欄 A と D に入る語句の組み合わせとしてもっとも適当なものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄

5 にマークしなさい。

- | | | | | |
|---|---|----|---|----|
| ① | A | 断片 | D | 神秘 |
| ② | A | 断片 | D | 極致 |
| ③ | A | 先鋭 | D | 奇跡 |
| ④ | A | 先鋭 | D | 神秘 |
| ⑤ | A | 暴力 | D | 極致 |
| ⑥ | A | 暴力 | D | 奇跡 |

問六 傍線部B「そのフォルマリズムを超えるために」とあるが、タウトにとっての「フォルマリズム」の説明としてもっとも適

当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 6 にマークしなさい。

① 建築のフォルムだけを際立たせるコルビュジエのフォルマリズムは、建築が場所の上に突出して見える切斷主義的なモダニズムであった

② ミースが地面から切斷された目立つ形態を作ったサヴォア邸は、モダニズム的なフォルマリズムの建築として批判の対象であった

③ あらゆるモダニズムは、場所と建築とをつなぎ合わせるといふ最も重要なことをおろそかにしたフォルマリズムであった
④ コルビュジエやミースの切れ味のいい切斷主義的なフォルマリズムは、二〇世紀初頭の工業化社会の時代に迎合するものであった

⑤ 場所から切り離された建築の形態を際立たせるフォルマリズムは、場所と建築とをつなぎ合わせることによって克服されるべきものであった

問七 空欄

C

に入る語句としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 7 にマークしなさい。

① 自然そのものの息吹を感じさせるような美しい生垣

② 自然と人間との関係を象徴するような記号的で抽象的な生垣

③ 自然と人工との間に宙づりにされたような特殊な生垣

④ 人為的なものを感じさせない素朴で自然な生垣

⑤ 熟練の職人の手で編み上げられた精緻な生垣

問八 傍線部E「関係」のような曖昧で複雑なものを理解する情熱を、二〇世紀初頭の工業化社会は有していなかった」とある

が、その理由としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 8 にマークしなさい。

① 二〇世紀初頭の工業化社会における商品は、自然と人間との関係を完全に切り離れた切斷主義的な商品ばかりだったから
② 商品を大量に生産し大量に販売して、経済をまわしていく工業化社会が必要としていたのは、わかりやすくシンプルな形態を有する商品であったから

③ 二〇世紀初頭の工業化社会は、商品を大量に生産し大量に販売して、経済をまわしていく功利主義的な社会であったから
④ 二〇世紀初頭の工業化社会は、他のものとの関係から切り離されたわかりやすくシンプルな形態をもたせた商品の大量生産・大量販売を目指したから

⑤ わかりやすくシンプルな形態を有する商品のデザインを得意としたコルビュジエやミースが、工業主義的時代の寵児となったから

問九 傍線部F「被害者意識と選民意識とが複雑に入り混じりあったアマルガム（融合物）は、日本人の心の風景であり続けた」

とあるが、その説明としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 9 にマークしなさい。

① 日光東照宮に代表される悪趣味でキツチュな武家文化と、桂離宮に代表される良質でモダンな宮廷文化は、複雑に融合して日本人の精神の中に常に生き続けてきた

② タウト以来、日本の伝統文化の中に二つの対極的なものを見出そうという試みが、絶えることなく続けられてきた

③ 日本人は、大陸の影響に徹底的に従属させられたという被害者意識と、大陸の影響をきっぱりとはねつけたという選民意識とが入り混じりあった複雑な精神を、常にもち続けた

④ 日本人は、「漢意」と「もののあはれ」という二項対立型日本論を、太古の時代からそのまま変わらずもち続けてきた

⑤ 日本人は、中心の影響に翻弄され続ける辺境に位置したという意識をもってきたが、同時に翻弄されつつもしなやかであり不変であったという意識ももってきた

問一〇 後のア～ケのうち本文の内容に合致するものの組み合わせを次の①～⑦の中から一つ選び、解答欄 10 にマークしなさい。

- ① アカ ② アウキ ③ イク ④ エキ ⑤ オクケ ⑥ カケ ⑦ クケ

ア 桂離宮の建設者は、庶民階級に対して自己のもつ高い文化標準の模範を示そうとする意図をいだいていなかった

イ 京都大学建築学科の基礎を築いた、東京大学出身の武田五一は、奈良の古い寺社建築を重視した

ウ タウトは、儒教の教えを「漢意」として批判し、「もののあはれ」を日本固有の情緒であるとして称えた本居宣長を読んで、強い影響を受けた

エ 桂離宮にも、古いヨーロッパに見られるような階級的距離が認められる

オ 工学教育の中心地として創立された東京大学の建築学科においては、「もののあはれ」の日本の美学が重視された

カ 桂離宮や京都御所には、華美に走った威圧的な外国の宮殿とは全く異なった様式が見られる

キ タウトによれば、日本建築の良質でモダンな部分は武家の文化と結びついており、悪趣味でキツチュな部分は宮廷文化と結びついている

ク 数寄の美学を完成させた千利休は、書院造の日本建築に自分の美学を見出した

ケ 桂離宮のような日本の簡素な建築においては、庭園との関係性が豊かさを生み出している

問題二（古文）

全国入学試験においてネットワーク情報学部のみを受験する方は採点の対象にならないので、解答しなくても結構です。

ネットワーク情報学部以外の学部を受験する方，ネットワーク情報学部と他学部を併願している方，およびスカラシップ入学試験を受験する方は解答してください。

問題二 次の文章は、「源氏物語」に描かれなかった「源氏の君」と「前坊の御息所」^{みやすんどころ}との出会いの場面を本居宣長が創作したものである。これを読み、後の設問に答えなさい。

内^(注1)にも、故宮^(注2)の御ことを忘れさせ給はず、あはれにおぼしめし出でつつ、折々の御とぶらひ、絶えずぞありける。源氏の君にも、「前坊の御息所のあはれにながめ給ふらむを、折々はとぶらひものせよかし」など、のたまひつけしかば、「げに、心にくく、よしある人」と、先々も聞き置き給ひし辺りのことなれば、かつはゆかしくおぼされて、一日^{ひとひ}、内裏よりまかで給ふとて、夕つておはしけり。^(a)

ほど遠ければ、暮れ果ててぞおはし着きぬる。御門のもとに御車たてさせて、御隨身^{ずいじん}入れて、案内せさせ給ふほど、少しさし出でて、見入れ給へば、木立いと物古^{ものふる}りて、木暗く見え渡り、けはひしめやかに、心にくく思ひやられ給ふに、そのことも聞きわかれぬほどの物の音、松風に響きあひて、たえだえ聞こえるも、あはれになまめかしく、なみなみならぬ爪音^{つまおと}と聞きなし給ふにも、御心ときめきして、何事も世に名高くものし給へば、「違^{ちが}ふべくもあらぬ御息所の御琴の音」と、御耳とどめて、聞きおはします。うちには、にはかなるほどの御とぶらひに、人々「そそや」と慌てつつ、ささめき騒ぐほどに、御琴は弾^はきさし給ひつ。

「なかなかなるほどを」^Bと、君は口惜しうおぼす。隨身出でぬれば、御車より降り給ひて、いたう心げさうしつ、ひきつくるひうちふるまひて、歩み入り給ふ御さま、似^(c)るものなくめでたく、あてになまめかしう、にほひ満ちたるに、いとかがやかしうはづかしくて、とみに出で来る人もなければ、階^{はし}のもとにたたずみて、うちながめおはさうず。いと X して、中将の君といふ出でて、「思ひ給へかけぬほどの御とぶらひにて、何事もいと Y、かたじけなきわざになむ」とて、御しとね差し出づるさまなど、いたう慣れたり。

「いでや、先々も参り侍りて御有様も承らまほしうは思^ウひ給へたちながら、よろづ思ひ給へつつみてなむ心ざしのほどをも、今までえ御覽せさせ侍らざりし。^(注3)上も常に故宮の御事をのみ、明け暮れ忘れさせ給はず、この御有様の心苦しうあはれなることとのたまひ出でつつ、姫宮のいかにうつくしう生ひ出で給ひぬらむなど、御心ざし浅からぬさま」など、大方の御とぶらひ、いとこま

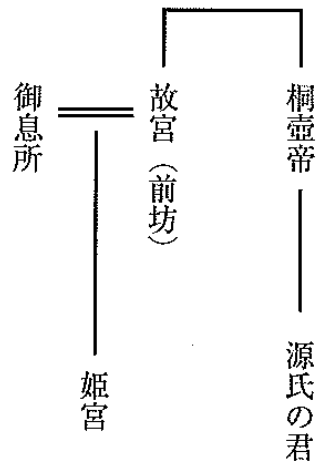
やかにて、「かく参り初め侍りぬれば、また、のどかにを」^(d)とて、その夜はすくよかにて出で給ひぬ。^エかくふりはへ渡らせ給ふ御心ざしを、いかがは浅くおぼしめされむ。^シ

(「手枕」による)

(注1) 内……源氏の君の父である桐壺帝

(注2) 故宮……桐壺帝の弟。東宮であつたが即位せずに亡くなった。「前坊」と同一人物

(注3) 上……桐壺帝のこと



問一 傍線部A「ゆかしくおぼされて」の解釈としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 11 にマ

クしなさい。

- ① 煩わしいことだとお感じになって
- ② 心引かれることだと思いいになって
- ③ 奥ゆかしい方だとお感じになって
- ④ なつかしいとお思いいになって

問二 二重傍線部(a)～(d)の動詞の活用の種類の組み合わせとしてもっとも適当なものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄

12 にマークしなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|-----|--------|-----|--------|-----|---------|-----|--------|
| ① | (a) | サ行変格活用 | (b) | サ行変格活用 | (c) | ナ行変格活用 | (d) | ラ行四段活用 |
| ② | (a) | サ行四段活用 | (b) | サ行四段活用 | (c) | ナ行変格活用 | (d) | ラ行四段活用 |
| ③ | (a) | サ行変格活用 | (b) | サ行四段活用 | (c) | ナ行上一段活用 | (d) | ラ行変格活用 |
| ④ | (a) | サ行四段活用 | (b) | サ行変格活用 | (c) | ナ行上一段活用 | (d) | ラ行四段活用 |
| ⑤ | (a) | サ行変格活用 | (b) | サ行変格活用 | (c) | ナ行上一段活用 | (d) | ラ行変格活用 |
| ⑥ | (a) | サ行四段活用 | (b) | サ行四段活用 | (c) | ナ行変格活用 | (d) | ラ行変格活用 |

問三 波線部ア～エの主体の組み合わせとしてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄

13

にマークしな

さい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 源氏の君 | イ | 御息所 | ウ | 帝 | エ | 帝 |
| ② | ア | 御息所 | イ | 源氏の君 | ウ | 源氏の君 | エ | 源氏の君 |
| ③ | ア | 源氏の君 | イ | 源氏の君 | ウ | 源氏の君 | エ | 御息所 |
| ④ | ア | 御息所 | イ | 中将の君 | ウ | 御息所 | エ | 源氏の君 |
| ⑤ | ア | 源氏の君 | イ | 帝 | ウ | 御息所 | エ | 御息所 |

問四 傍線部B「なかなかなるほどを」の心情としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄

14

にマ

クしなさい。

- ① 源氏の君は、琴の演奏が途中で終わってしまったことを残念に思った
- ② 源氏の君は、琴の演奏を妨害してしまったことを申し訳ないと思った
- ③ 中将の君は、琴の演奏を源氏の君に聞かれてしまったことを恥ずかしいと思った
- ④ 源氏の君は、琴の演奏が上手にできるようになった姫宮の成長ぶりをうれしく思った
- ⑤ 中将の君は、琴の演奏で出迎えた御息所の心づかいを、すばらしいと思った

問五 空欄

X

Y

に入る語の組み合わせとしてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄

15

に

マークしなさい。

X

Y

- ① はづかしく — うらめしく
 ② ゆくりかに — あからさまに
 ③ やにはに — いたづらに
 ④ ひさしく — かたはらいたく

問六 傍線部C「かくふりはへ渡らせ給ふ御心ざしを、いかがは浅くおぼしめされむ」の解釈としてもっとも適当なものを次の①

④の中から一つ選び、解答欄

16

にマークしなさい。

- ① わざわざ訪ねてくださった源氏の君のお気持ちに、帝が深い感銘を受けないということがあろうか
 ② わざわざ源氏の君を差し向けてくださった帝のお気持ちに、姫宮が深い感銘を受けないことがあろうか
 ③ わざわざ訪ねてくださった源氏の君のお気持ちに、御息所が深い感銘を受けないことがあろうか
 ④ わざわざ訪ねてくださった源氏の君のお気持ちに、姫宮が深い感銘を受けないことがあろうか

問七

本文の内容と合致するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄

17

にマークしなさい。

- ① 源氏の君は、帝の代理として御息所に会いに行くことを自ら提案した
- ② 御息所は、源氏の君に会うことを恥ずかしく思ったので、姿を現さなかった
- ③ 中將の君は、前触れもなく訪問してきた源氏の君に対してわざと失礼な態度をとった
- ④ 源氏の君は、御息所の住むもの寂しげな屋敷の様子に心ひかれる思いがした
- ⑤ 御息所は、宮中に参上し始めた頃のような穏やかな生活を送りたいと望んだ

問八

本居宣長の著作を次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄

18

にマークしなさい。

- ① 雨月物語
- ② 日本永代蔵
- ③ 国性爺合戦
- ④ 花月草紙
- ⑤ 玉勝間